

■ -----
第 49 回日本小児内分泌学会学術集会 査読システムの公開について
----- ■

今回は学会として最優秀演題賞、若手優秀演題賞を決めました。
その選定方法を含め、査読の仕方を公開いたします。

【査読および最優秀演題賞／若手優秀演題賞審査について】

査読方法：

《一次抄録の評価(800 文字程度:40 歳未満か否かを記載)》

理事・各委員会委員長・副委員長・CPE 編集委員の他に、
学術集會長の選ぶ査読者が行う。

- 1)1 演題に対し、3-4 名が 3 段階の相対評価を行い、上位 100 演題を選ぶ。
- 2)上記の上位 100 演題を、6-7 名が、新規性・独創性・方法の妥当性・臨床的インパクト・文章の 5 項目に対し 5 段階の絶対評価(一演題について5x5x4が満点)を行い、上位 20 演題を選ぶ。

《二次抄録の評価(1600 字程度:上記 20 演題を対象)》

理事・学術集會長が行う。

- 1)上記の5項目に対し 5 段階の絶対評価を行い、
上位 10 演題に絞り込む(20 演題の二次抄録は抄録集に掲載する)。

《学術集會初目の発表(10 分+質疑 5 分)後の評価》

副理事長(責任者)、CPE 委員長、卒後教育委員長、内分泌代謝専門医委員長、
学術集會長、前年度・前前年度の最優秀受賞者が行う(理事長はオブザーバーとして参加する)。

- 1)上記の 5 項目に、質疑応答を含めたプレゼンテーションのレベルを加えた 6 項目に対して、5 段階の絶対評価を行う。
- 2)既に点数化されている二次抄録の評価と発表内容に対する上記1)の評価を合計し、その後、委員の話し合いを経て最優秀演題賞を決定する。
- 3)次に、40 歳未満の筆頭発表者の演題から若手優秀演題賞を決定する。

《対象演題》

当該学会前々年度以前に論文化されている演題は対象としない。

○最優秀演題賞○

当該年度における発表の中で最優秀とされる演題であり、
年齢・研究実施場所・受賞回数などの制限条件は一切なしとする。
原則として1演題を対象とするが、2演題までは対象となりうる。

○若手優秀演題賞○

当該年度における発表の中で40歳未満の学会員が国内において研究し、
筆頭で発表するものを対象とし、最優秀演題賞の後に選出する。

原則として基礎的内容の発表と臨床的内容の発表から1演題ずつを選出するが、
賞に相応しいものであれば、基礎的内容と臨床的内容のいずれかから2題まで受賞
対象とする(計3演題まで可)。同一個人の受賞回数は2回までとする。

《上記演題賞の発表》

総会で理事長が講評とともに発表する。
また、このときの審議内容の報告書を作成し、HP等に公開する。

《副賞》

最優秀演題賞には、表彰状、賞金20万円、
若手優秀演題賞には、表彰状、賞金10万円とする。

[付記]

- 1)抄録の審査をより厳格化する。
そのうえで最終選考審査までプロセスを透明化する。
- 2)2015年度から数年間試行し、制度見直しについて話し合いをする。
なお、2016年度はAPPEESとの合同開催であるため、若干の変更はありうる。

第 49 回日本小児内分泌学会学術集会

会長 長谷川 行洋

(都立小児総合医療センター内分泌・代謝科)

□-----

第 49 回日本小児内分泌学会学術集会

会 長:長谷川 行洋(都立小児総合医療センター内分泌・代謝科)

日 程:2015 年 10 月 8 日(木)～10 日(土)

会 場:タワーホール船堀(東京都江戸川区)

テーマ:“会い、学び、教え、論ずる”

学会～次世代へ伝承「症例から学ぶ」～

ホームページ:<http://jspe49.umin.ne.jp/>

-----□